12　屋外活動中に竜巻注意情報が発表された場合の避難訓練

|  |
| --- |
| 訓　練　の　場　面　設　定 |
| 災　　害 |  火災　地震　津波　土砂　竜巻 | 避難場所 | 教室　運動場　体育館　二次避難場所　 |
| 時　　間 | 授業中　休み時間　登下校中 | 状　　況 | 停電　学校施設破損　負傷者あり　行方不明者あり |
| 場　　所 |  教室　 特別教室　 体育館　 運動場　 学校外 | そ の 他 |   |

ねらい

　　「竜巻注意情報」が発表され、学校が所在する地域に竜巻が発生する兆しを察知した場合に、避難場所まで整然と避難ができるか。また、竜巻が発生し学校付近を通過した場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるかどうかを検証する。

事前指導(○)・準備(●)のポイント

　○ 「竜巻から身を守る」（気象庁）等を活用して、竜巻発生のメカニズムや基本的な対応について学習する。

○　竜巻発生の危険性が高まり、安全な場所（屋内）に避難する際、「**お**さない」「**は**しらない」「**し**ゃべらない」「**も**どらない」の約束を守ること。

○　身を守るための行動「窓に鍵をかけカーテンを閉める」「窓から離れる」「机の下に潜る」「身を小さくして頭を守る」を素速く行うこと。

●　児童生徒の避難訓練であると同時に、教職員の適切な指示訓練及び誘導訓練であるという意識をもつこと。

●　障害のある児童生徒一人ひとりに応じた対応方法について保護者と確認するとともに、全教職員で共通理解を図ること。

●　通報訓練の実施について、事前に教育委員会へ連絡しておくこと。

訓練の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 状　　況 | 教職員の指示・行動等 | 児童生徒の行動 |
| 竜巻注意情報発表①情報収集 | ◇教頭等は、竜巻が発生することを想定し、下関地方気象台のＨＰ｢竜巻発生確度ナウキャスト｣等により気象情報を確認するとともに、定期的に周囲の空の状況を確認する。 |  |
| ②気象状況の連絡③空の状況の目視④避難及び避難状況の確認⑤点呼竜巻発生⑥安全確保行動竜巻通過⑦安全確認・点呼⑧通報⑨指導講評 | ◇放送による連絡「現在の気象状況について連絡します。先ほど、山口県に竜巻注意情報が発表されました。屋外にいる人は、空の状況に注意しながら活動してください。なお、今後の放送に十分注意してください。」◇教頭等は、定期的に周囲の空の状況を確認する。（→発達した積乱雲の近づく兆しを察知）◇放送による避難指示　「屋外で活動している児童（生徒）・教職員に連絡します。落雷や竜巻等突風の危険性が高まっています。直ちに教室に避難してください。」◇教職員は、児童生徒の避難状況を確認する。◇児童生徒の点呼を取り、行方不明者の有無を確認した上で、校長（教頭）に報告（直接またはインターホン等）する。◇放送による安全確保行動指示　「緊急連絡。ただ今、学校周辺で竜巻が発生しました。窓に鍵をかけカーテンを閉め、窓から離れてください。」◇教職員の指示　 ｢教室の前と後ろに机を集めて、ガラスなどの飛散物から身を守るためのシェルター（簡易避難場所）を作りなさい。カバンで頭を覆い、机の下にもぐりなさい。｣◇放送による安全確認指示　 ｢現在の気象状況について連絡します。竜巻は去って、状態は安定しました。先生方は児童（生徒）の状況を確認して、職員室へ報告してください。｣◇児童生徒の点呼を取り、負傷者の有無を確認した上で、校長（教頭）に報告（直接またはインターホン等）する。◇教頭等は、教育委員会へ児童生徒・教職員の状況等を報告する。◇校長等による指導講評を行う。（校内放送） | ◇落ち着いて放送を聞く。◇落ち着いて放送を聞く。◇教職員の指示に従い、「お・は・し・も」を守りながら教室に移動する。◇落ち着いて放送を聞き、迅速に安全確保行動を取る。◇指導講評を聞きながら、自分の安全確保行動について振り返る。 |

指導講評のポイント

○　竜巻は、発達した積乱雲の下で発生することが多く、周囲の空の状況に十分注意する必要がある。

　○　発達した積乱雲の近づく兆しとは、「真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる」｢雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする｣｢ヒヤッとした冷たい風が

吹き出す｣｢大粒の雨やひょうが降り出す｣等であること。

　○　自宅等にいる際に竜巻が発生した場合は、窓やカーテンを閉め、１階の窓のない部屋に移動し、丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして

　　頭を守ること。

　○　屋外にいて竜巻に遭遇した際は、頑丈な構造物の物陰に入って、身を小さくして頭を守ること。